

第2次苫小牧市食育推進計画～地域を生かした食育の推進～

実施結果・実施計画調査

※課の自己評価の記載【A:順調 B:やや順調 C:やや遅れている D:遅れている】

資料1

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数	
1 「食」を学び、健康なからだをつくりまします	朝食を毎日食べている人の割合	(小学生) 85.2% 【令和元年度学校保健会調査】	100%に近づける	(令和7年度) 学校保健会 令和5年度調査なし	妊娠・乳幼児期	1	パパママ教室	こども家庭支援室	初妊婦とその夫（パートナー）を対象に、妊娠期に過不足しやすい栄養素や口腔管理についての講話や、食育SATシステムを用いた食事バランスチェック体験等を行います。	年4回実施 131組参加	A：順調	参加定員数をおおむね満たす参加者数で開催し、講話の内容についても予定通り実施できたため。	妊娠期に過不足しやすい栄養素や口腔管理についての講話、食育SATシステムを用いた食事バランスチェック体験等を行います。	定員36組 年4回実施 144組	
		(成人) 69.5% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	90%以上	(令和7年度) 指導室 小学6年生 78%		2	妊娠・育児等の個別支援	こども家庭支援室	妊娠や子ども、子育てに関する悩みを抱えている妊婦・保護者からの食に関する相談（窓口・電話・メールなど）に保健師・管理栄養士が応じます。	訪問人数：2,204人（延べ）	A：順調	妊産婦や乳幼児の家庭訪問において、食や栄養に関する相談に応じることができたため。	妊娠や子ども、子育てに関する悩みを抱えている妊婦・保護者からの食に関する相談（窓口・電話・メールなど）に保健師・管理栄養士が応じます。	母子手帳の交付数・出生数の減少に伴い、前年度より微減の見込み。	
		バランスのとれた食生活を意識する人の割合	75.3% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	85%以上			3	こんにちは赤ちゃん訪問事業	こども家庭支援室	生後4か月までの乳児の全戸訪問を実施し、母子の心身の状況を確認し、産後の母の食事や授乳等、食に関する相談に応じます。	訪問件数：750件	A：順調	生後4か月までの乳児の全戸訪問において、乳児とその家族に対する食事や栄養に関する相談に応じる。	母子手帳の交付数・出生数の減少に伴い、前年度より微減の見込み。700人	母子手帳の交付数・出生数の減少に伴い、前年度より微減の見込み。700人
			(3歳) 5.8% 【令和2年度苫小牧市3歳児健康診査】	現状値以下			4	赤ちゃん教室	こども家庭支援室	2か月、6～7か月、11～12か月児を持つ保護者を対象に、離乳食を含めた育児全般に関する講話と、個別相談を実施します。	年12回実施 158組参加（児161名、保護者206名）	A：順調	予定回数を実施できた。母親だけでなく、父親の参加も増えており、保護者の参加者数が増加しているため。	地域での子育て支援事業や交流の場の拡充に伴い、2か月のみ実施とする（他の月齢はR5年度で終了）。保健師相談の拡充や母子手帳アプリを通じた知識の普及を行う。	定員20組 年12回実施 240組
	肥満の割合	3歳：肥満度15%以上 小中学生：肥満度20%以上 成人：BMI 25.0以上	8%以下		5	乳幼児健康診査	こども家庭支援室	各健診の場面において、保健師、栄養士等による個別相談を実施します。また、フードモデルの活用やパネル展示により、保護者に対する正しい食知識の普及と、育児不安の軽減を図ることを目的に実施します。	対象者数922人 受診者数904人 受診率98.0% 肥満度15%以上の児51人(5.6%)	A：順調	令和7年度予定受診率95%以上を上回り、かつ、肥満度15%以上の児も令和7年度59人(5.7%)から49人(5.4%)と減少しているため	各健診の場面において、保健師、栄養士等による個別相談を実施します。また、フードモデルの活用やパネル展示により、保護者に対する正しい食知識の普及と、育児不安の軽減を図ることを目的に実施します。	3歳児健診 受診率95%以上		
		(小学生) 12.7% 【令和2年度小中学校肥満やせ調査】	10%以下	(令和7年度) こども家庭支援室 3歳 5.4%	6	離乳食・食育講習会	幼保施設課	離乳食を食べる子を持つ保護者を対象に、月齢ごとの調理法を栄養士が指導します。また、作った離乳食を親子で実食しながら個別の食事相談を行います。食育講習会では、幼児食の食事のポイントを指導し、保育園給食のおやつ試食を行います。	【離乳食講習会】 6/25、9/19、11/27、1/21 計4回実施 【食育講習会】 10/22実施	A：順調	個別相談にしっかり対応できており、参加者アンケートからも満足度の高い評価を得られている。食育講習会については参加希望者も多いため、次年度は実施回数を1回増やす予定。	【離乳食講習会】 6/16、9/16、11/17、2/9 計4回実施予定 【食育講習会】 7/14、10/6 計2回実施予定	【離乳食講習会】 定員 10組×4回 80人 【食育講習会】 定員 10組×2回 40人		
		(中学生) 13.1% 【令和2年度小中学校肥満やせ調査】			7	出前講座・出張相談	幼保施設課	保護者を対象に、朝食を通して規則正しい生活リズムと食生活を心がけることを目標とし、食事のバランスと子どもの発達に応じた適量を伝えます。	子育て支援センター食事相談月3回（5月～2月）、児童センター出張相談（不定期）は実施。出前講座は依頼無し。	A：順調	支援センター食事相談42件、出張相談61件、電話相談15件と多くの個別相談に対応することができた。	各種団体等からの依頼に応じて随時対応するほか、子育てに関する出張相談（子育て支援センター、児童センター主催とまへびータイム、電話相談等）を実施します。	-		
		(小学生) 12.7% 【令和2年度小中学校肥満やせ調査】		(令和7年度) 学校給食共同調理場 小学生 12.7%	8	保育園・認定こども園での食育、栄養指導	幼保施設課	食べることを楽しみ、自分で食べる意欲を培うことができるように、食べることの大切さや健康と食べ物の関係について子どもたちに伝えまします。	認可保育施設の食育活動の内容をまとめた報告書を作成。情報を共有し、各施設の食育活動の充実を目指し、必要に応じて、幼稚園にも食育活動の情報を提供した。	A：順調	各市内認可施設の食育活動について報告書をまとめ、各施設に送付することができた。報告書を参考に次年度の取り組みについて検討してもらう。	認可保育施設の食育活動の内容をまとめた報告書を作成。情報を共有し、各施設の食育活動の充実を目指します。必要に応じて、幼稚園にも食育活動の情報を提供します。	保育園（13園：公立2園、私立11園）、認定こども園（私立23園）、及び小規模保育施設（私立14園）		

第2次苫小牧市食育推進計画～地域を生かした食育の推進～

実施結果・実施計画調査

※課の自己評価の記載【A:順調 B:やや順調 C:やや遅れている D:遅れている】

資料1

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数
やせの割合 やせ：BMI18.5未満	(30歳代男性) 33.8% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	28%以下	(令和7年度) 学校給食共同調理場 中学生 14.5%		学童期	9	食育だより	幼保施設課	食についての啓発活動として、保育園・認定こども園に通う児の保護者や市民に向けて情報発信をします。	年4回発行 保護者(公立園対象)へアプリで配信、苫小牧市のホームページにも掲載した。	A:順調	計画どおりに発行、配信することができた。	前年度の取組みを継続 ・年4回発行(5、8、11、1月) ・公立保育園へのアプリ配信(2園で約150世帯) ・市ホームページへの掲載	-
						10	苫小牧市立保育園食育計画	幼保施設課	「食を営む力を育てるために」を食育目標に掲げ、食を通じた子どもの健全育成を目指します。これを基にして各認可保育園では独自の年間食育計画を作成し実施します。	今年度も継続して本計画を基に各認可保育園等において独自の年間計画を作成し実施した。	A:順調	各認可保育園からの報告や施設巡回時などで、食育計画の作成を確認することができた。	今年度も継続して本計画を基に各認可保育園等において独自の年間計画を作成し実施します。	保育園(14園:公立2園、私立11園)、認定こども園(私立23園)、及び小規模保育園(私立14園)
						11	食に関する指導	学校給食共同調理場	(小中学生を対象として)健康で豊かな人間性を育むため、栄養教諭が栄養や食事の摂り方等について、計画的に指導します。	令和7年7月1日から11月18日までに市内小中学校で計192回の授業を実施した。 【授業内容】 「給食ができるまでを知ろう」 「食べ物の3つの働きを知ろう」 「バランスの良い朝ごはんを食べよう」 「夢を叶えるための食生活～将来への基礎作り～」	A:順調	希望調査のとおり実施することができたため、A評価とした。	市内小中学校で希望調査をとり、小学1・3・5年と中学校を対象に授業を実施する。また、授業内容は昨年度から変更しない予定。	各小中学校の児童
						12	給食試食会	学校給食共同調理場	保護者への試食会を通してアンケート調査を実施し、調査の内容は献立作成の参考とします。	令和7年6月30日～3月6日に14校68回1331人に試食会を実施した。うち632人がアンケートに回答した。(回答率47%)	B:やや順調	アンケート調査の回答率が前年度(51%)よりも低下したため、B評価とした。回答率を上げるための工夫を検討する。	試食会時にアンケート調査を実施し、結果について献立作成の参考とする。	各小中学校の保護者
						13	栄養だより	学校給食共同調理場	児童生徒の実態、栄養面や食生活を取り巻く環境等の情報を家庭や学校に提供します。	計3回、献立表裏面に掲載した。 【掲載内容】 ①6月 ・試食会アンケート結果 ・食育月間に係る苫小牧市内での取り組みについて ②11月 ・肥満・痩せ調査結果 ・給食作文コンクール、給食に関する標語の入賞作品掲載 ・生活習慣病のコラム ③2月 ・リクエスト給食アンケート結果 ・食事挨拶と共食のコラム	A:順調	予定通り実施することができたため、A評価とした。	年3回発行する。(内容未定)	各小中学校の児童生徒・保護者・教職員
						14	小中学校食育計画	指導室	市内各小中学校では、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき、食育の推進に取り組めます。	市内全小中学校(小学校22校、中学校14校、義務教育学校1校)において、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき実施	A:順調	各学校において、食育指導の目標達成に向けて、特別活動や各教科等の学習を関連付けながら食育の推進が図られたため	市内全小中学校(小学校22校、中学校14校、義務教育学校1校)において、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき実施	市内全小中学校の児童生徒が対象

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数
					壮年期 ～ 老年期	15	特定健康診査、特定保健指導	保険年金課	30歳以上の国保加入者を対象に、生活習慣病の早期発見や重症化予防を目的とし、特定健康診査を実施します。検査の結果、メタボリックシンドロームに該当する方に対して、食生活等の改善を促す特定保健指導を行います。	特定健康診査受診率 28.7% (R8.3.26時点) 特定保健指導実施率 7.2% (R8.3.26時点) プレ特定健診受診者数 149人 (R8.2月時点) ※法定報告(R8.10月)に確定	B: やや順調	R7年度実施結果については、確定がR8.10月であるため現時点で評価することは難しいが、R6年度実施結果については、目標値には達していないものの、北海道の平均を大きく上回った受診率となっているため。	30歳以上の国保加入者を対象に、特定健康診査(身体計測、血圧測定、肝機能検査など)を実施し、生活習慣病の早期発見や重症化予防を図ります。また、特定健康診査の結果、メタボリックシンドロームに該当する方に対し、生活習慣の改善を目的とした特定保健指導を実施します。R8年度からは、実施機関向けアンケートや、受診者に対しアンケートを併せてプレゼントキャンペーンを行い、現状把握と改善点の洗い出し及び対象者の関心惹起につなげる。	特定健康診査受診率 41% 特定保健指導実施率 34% プレ特定健診受診者数 225人 ※目標値
						16	重症化予防事業	保険年金課	特定健康診査の結果、高血圧や高血糖、脂質異常症などにより、生活習慣病の重症化のおそれがある方に対して、食生活等の改善を促す保健指導を行います。	勸奨後受診率: 76.4% 保健指導 0人 (R7.11月時点)	B: やや順調	保健指導は、医療機関との連携不足から、実施者数が伸び悩んでいるものの、受診勧奨は、特定健診結果から対象者を抽出しており、特定健診と連動した効果的な運用がなされているため。	ハスカッププラザに業務委託し、苫小牧糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づき、かかりつけ医と連携した保健指導を実施します。また、たか保健師事務所業務委託し、訪問による受診勧奨を実施します。	勸奨後受診率: 80% 保健指導: 3人
					老年期	17	介護予防講演会	介護福祉課	介護予防としての基本的な知識を普及啓発することを目的に、食生活と健康についての講座を行います。	実施回数2回 全75名参加	A: 順調	オーラルフレイル予防講演会を開催し、参加者は口腔の健康を保ち、いつまでも食事や他者とコミュニケーションを楽しむ意識を持つことができた。	R8年度のテーマは「運転寿命の延伸」、「高齢者の耳の聞こえ」を予定しているが、高齢者の健康生活という観点から、栄養・オーラルフレイル予防に触れると考える。	講演会数は2回 参加予定人数は70名
						18	地域リハビリテーション活動支援事業(旧:介護予防講師派遣事業)	介護福祉課	高齢者が元気に長生きするための食生活や口の健康についての講話を行います。	派遣回数3回 全30名参加	B: やや順調	3回のうち1回が歯科衛生士の派遣であり、支援者に対して口腔機能や嚥下機能の観察ポイントを助言する。支援者側がオーラルフレイル予防の重要性を理解することで、高齢者のQOLが向上することに期待できる。	リハビリ専門職の派遣が多いが、栄養士、歯科衛生士の派遣も可能であることを周知していきたい、活用回数を増やす。	派遣予定回数は7回 参加予定人数は50名
						19	在宅高齢者給食サービス	介護福祉課	在宅の高齢者が健康で自立した生活ができるよう、食の自立及び栄養改善の観点からアセスメントを行ったうえで、定期的に居宅を訪問し原則として夕食を宅配します。	週6回1日1食 配食数54070件	B: やや順調	対象者が拡充され、60歳以上の方・2号被保険者のうち要支援・要介護を受けている方も対象になったことにより、「食」の自立及び栄養改善につながる方が増える事が期待できる	給食利用者が年々減少傾向にあるため、利用者の維持・増加に繋がるよう周知を行う	週6回1日1食 配食数70000件
						20	健考・健幸DAY	健康づくり課	ポピュレーションアプローチを実施することにより、健康意識の向上及び生活習慣の改善の意識づけを目的に年に1度開催します。	・健考・健幸DAY2025として、9/23(祝)にイオンモール苫小牧で市民の健康意識向上を目的とした体験型健康イベントを開催。「うちらぽ」をはじめ14のブースを設置し、体験型コンテンツや健康チェックの機会を提供した。延べ1,952人参加。 ・「スポーツフェスティバル2025」にてブース出展。肥満をテーマに子ども、子育て世代を対象とし、こどもも楽しく学べる「生野菜の重さ当てゲーム」をはじめ3つの体験ブースを設置。実人数326人、延べ人数783人参加。	A: 順調	・イオンモール苫小牧での健考・健幸DAYは初めての開催で、幅広い年代に対し、健康意識向上の機会を提供することができた。 ・スポーツフェスティバルでは参加人数(延べ)が前年度の約1.8倍となり、野菜の大切さや生活習慣改善の意識づけの機会となった。	・健考・健幸DAY2026として、9/12(土)にイオンモール苫小牧にて、朝食をはじめとした朝のリズムづくりをテーマに、健康イベントを開催予定。 ・スポーツフェスティバルイベント内スポーツEXPOとしてブース出展は継続実施。	イオンモール苫小牧にて健考・健幸DAY: 1回 延べ1,000人 スポーツフェスティバル: 1回実人数200名予定
						21	食育人材バンク	健康づくり課	食に関する知識や経験を有する方を講師として登録し、食育活動を希望する団体へ紹介します。また、登録者の人材育成を行います。	広報・リーフレットでの周知講師登録者: 11件(個人6件、団体5件) 活動件数: 44件	A: 順調	・前年度より活動件数が10件以上多く、幼児から高齢者まで食育活動の提供ができた。	・講師登録と、食育活動を希望する団体へ紹介を継続。 ・登録者の人材育成を行う。 ・連携協定会社の協力のもと、ページチェックを活用する。	各種団体からの依頼に応じて実施する。

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数
					全期対象	22	出前講座	健康づくり課	健康全般、栄養、運動、メンタルヘルス等のテーマで各団体向けに健康への関心・意欲向上を目的に適宜講座を実施します。	(成人) ・出前講座 実施 : 30回 参加者 : 811人 (母子) ・出前講座 実施 : 4回 参加者 : 25人	A:順調	・前年に比べ、1.8倍の申し込みがあり、健康教育を実施できた。	・健康と食育をテーマに、依頼団体の希望に沿った内容を提供する。	各種団体からの依頼に応じて実施する。
						23	健康講座	協働男女平等参画室	食に関する講話と実習を行うことにより、知識と技術の向上を図ります。健康志向の薬膳料理や季節、イベントにまつわる料理、親子で作る料理を通して生活の中にある食を体験します。また、様々なセクシャリティの方と一緒に楽しく料理を作って食べるイベントや他国の料理を作るなど、食を通して多様性について考える機会とします。	(前期講座) 朝のパンづくり、夜のパンづくりAコース・Bコース、手作りアイシングクッキー、豆のある食卓、親子でおいしいパンを作ろう(土曜日コース・日曜日コース)乾物のある食卓朝コース・夜コース (後期講座) 王さん直伝!中国家庭料理の魅力、夜のパン作り火曜日コース・木曜日コース、朝のパンづくり、手作りクリスマスケーキ朝コース夜コース、LGBTsの交流ひろばスピンオフ事業「多様性を輝かせるパン作り」	A:順調	食を通じた健康づくり、交流、多様性の理解促進等を目的に、様々な講座等を企画・実施し、周知にも注力することで定員に対して80%以上の参加者を得たことに加え、参加者からも好評を得ています。	昨年度の実施した事業の成果及び実績を踏まえ本年度においても同様に方針に基づき、事業を継続的に展開してまいりたいと考えております。 (前期講座) 乾物のある食卓、夜のパンづくりAコース・Bコース、親子でおいしいパンを作ろう(土曜日コース・日曜日コース) (後期講座) 王さん直伝!中国家庭料理の魅力、夜のパン作り火曜日コース・木曜日コース、朝のパンづくり、手作りクリスマスケーキ朝コース夜コース、LGBTsの交流ひろばスピンオフ事業「多様性を輝かせるパン作り」など	300人
						24	防災講座	危機管理室	災害時に備えた食育の推進を図るため、各家庭環境に応じた備蓄方法(ローリングストック)の紹介や食料品の備蓄の重要性について普及啓発を行います。	各家庭の自助意識向上のため、防災講座で備蓄食のローリングストック方法を紹介し、従来の乾パンのようなものだけでなく、普段買っているカップ麺等も備蓄食になるということを伝えていくことができた	A:順調	前年度より数を伸ばすことができたため	前年度と内容は変わらず、それにプラスして昨年の津波警報などの反省を生かせるように伝えていく	未定
2 「食」を楽しむ、感謝の気持ちを育みます	朝食や夕食をほぼ毎日家族と一緒に食べる人の割合(週4日以上)	(朝食) 47.5% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	70%以上		乳幼児期	25	出前講座	ゼロごみ推進課	環境戦隊053ファイブが幼稚園や保育園を訪問し、ごみの減量を目的に、食べ物の大切さを伝え、食品ロス削減の意識向上に努めます。	市内2園で、ゼロカーボンとゼロごみに関する内容を寸劇にした出前講座を実施した。	A:順調	子供向けにヒーローを題材に発信することで興味を持ってもらうことができた。	引き続き、食品ロス削減の意識向上のため出前講座を実施する。	出前講座(随時受付)
					学童期	26	出前講座	ゼロごみ推進課	希望のあった小学校を対象に、「使いきり」「食べきり」「水きり」の生ごみ3きり運動について、出前講座を行います(オンライン講座含む)。	市内10校で出前講座を実施した。	A:順調	低学年向けには講座内容を工夫し、発達段階に応じた出前講座を実施できた。	引き続き、食品ロス削減の意識向上のため出前講座を実施する。	出前講座(随時受付)
						27	郷土食	学校給食共同調理場	全国学校給食週間・食育月間に合わせ、「市の貝」ホッキを使った献立やカレーラーメンを郷土の味として提供します。	令和7年6月に「市の貝」ホッキを使用した「ホッキカレー」、1月に「カレーラーメン」を郷土の味として提供した。	A:順調	予定通り実施することができたため、A評価とした。	食育月間である6月にホッキカレー、全国学校給食月間の1月にカレーラーメンを実施予定。	各小中学校の児童生徒・教職員
					学童期	28	献立内容の充実	学校給食共同調理場	学校給食による旬の食材の使用、中学校3年生に対するアンケートによるメニュー、行事食等、工夫を盛り込み楽しみのある献立を目指します。	行事食や姉妹都市に関するメニューのほか、中学3年生を対象としたアンケート結果に基づき献立を提供した。また、苫小牧漁業協同組合や市内農家の協力のもと、積極的な地場産食材の使用にも努めた。	A:順調	予定通り実施することができたため、A評価とした。	旬の食材の使用や行事食等、工夫を盛り込み楽しみのある献立を提供する。	各小中学校の児童生徒・教職員

第2次苫小牧市食育推進計画～地域を生かした食育の推進～

実施結果・実施計画調査

※課の自己評価の記載【A:順調 B:やや順調 C:やや遅れている D:遅れている】

資料1

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数					
「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人の割合	67.5% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	現状値以上			学童期 ～ 老年期	29	企画展及び各種教育普及事業	美術博物館	ウトナイ湖や樽前山などの自然環境への理解を深めるよう、自然がもたらす恵みと苫小牧の食についての関連について伝えます。また、昔から今に続く食生活の歴史について伝えます。	市内小学生を対象とした郷土学習の石臼をひく体験を通して、昔の食生活を伝えました。(参加者1,365名)	A:順調	計画どおり市内全ての小学校を対象に実施することができました。	市内小学生を対象とした郷土学習の石臼をひく体験を通して、昔の食生活を伝えます。	約1,300人					
						30	生活体験教室	勇武津資料館	五穀米でおにぎりを作ったり、そば・大豆を石臼で引く体験や、そばがき作り、また、昔ながらの保存方法である燻製作りの体験などを通して食生活の伝導を行います。	事業回数:3回1)生活体験教室「せんべい焼きを体験しよう」2)生活体験教室「石臼をひいてそばがきをつくろう」3)「生活体験教室「くん製づくりに挑戦」参加者数:44名	A:順調	計3回実施した行事はいずれも定員を越える好評であった。また、食を中心とする体験を通して、事業の目的である地域の歴史や文化を知ることにつながった。	1)生活体験教室「せんべい焼きを体験しよう」2)生活体験教室「勇弘の海水で塩をつくろう」3)生活体験教室「石臼をひいてみよう」2実施予定回数:3回3参加予定者数:40名						
						31	エコクッキング教室	ゼロカーボン推進室	地球温暖化防止についてのミニ講座や、環境への負荷を減らす省エネ料理(余熱を利用した保温調理、食材を余すことなく使い切りの工夫など)を子どもと一緒に実践していく中で、家庭でもできる身近なエコ活動について学ぶ。	令和7年9月6日 10:30~13:30 苫小牧市民活動センター5階料理実習室で開催 【参加者】 市民15名(こども8名、大人7名)	B:やや順調	募集人数を上回る応募があり、市民から好評を得ている事業だが、料理教室の要素が強く、ゼロカーボン啓発の観点から事業を見直し、令和8年度は実施しない。	なし						
						32	アイヌ伝統料理講習会	総合福祉課	アイヌ民族の食文化の伝承と啓発を目的に、毎年3月に実施します。	令和8年3月に、アイヌ料理講習会を実施した。8名に参加いただき、アイヌの食文化の伝承と啓発に努めた。	A:順調	定員10名のところ、8名の参加となったが、アンケートを集計したところ、全参加者から肯定的な意見をいただいたため。	令和7年度と同様、アイヌの食文化の伝承と啓発を目的に、アイヌ料理講習会を実施予定。	10人					
					食品ロス削減を意識して実践する人の割合	79.9% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】(令和3年度)	85%以上			壮年期 ～ 老年期	33	グリーンツーリズム展開事業	農林水産振興課	農水産物に興味を示してもらうため、農水産業者と都市住民の交流を図ることを目的に実施します。	農水産業者と都市住民の交流イベントに補助金を交付した。	A:順調	樽前地域の農業者と樽前小学校の児童親子及び卒業生等がソーセージ作りを通して交流が図られたため。苫小牧漁業協同組合による小・中学校の出前授業においてホッキ貝の剥き方体験を通して交流が図られたため。	農水産業者と都市住民の交流イベントに補助金を交付する。	未定
											34	2510(ニコトマ)運動	ゼロゴミ推進課	おいしく残さず食べきるための普及啓発として宴会五箇条を掲げ、開始25分、終了10分前は席を立たずにしっかり食べる「2510(ニコトマ)運動」を広めます。	更なる食品ロス削減の推進を図るため、「2510(ニコトマ)運動」推奨店認定制度を継続し、イベントなどで普及啓発活動を行った。(R7時点で計27店舗加入。)	B:やや順調	店舗数に変更がないため	・更なる食品ロス削減の推進を図るため、「2510(ニコトマ)運動」推奨店認定制度を継続する。	市内飲食店へのPRを図り、協力を得ながら拡充する。
											35	ふるさと農園	農林水産振興課	市民が自身で行う野菜等の栽培を通じて、収穫の喜びを味わうことにより、健康的でゆとりのある生活の実現を図ります。	沼ノ端農園 88区画/88区画 錦岡農園 83区画/96区画	A:順調	利用者が昨年度に比べ増加傾向にあり、野菜等の栽培の関心の高さが伺えるため。	沼ノ端農園 88区画/88区画 錦岡農園 96区画/96区画	沼ノ端農園 88区画/88区画 錦岡農園 96区画/96区画
											36	おいしい水「とまチョップ水」	上下水道部総務経営課	安全・安心でおいしい苫小牧の水道水をPRしていきます。	①販売事業者(80か所) 77,208本 ②総務経営課直販 9,120本 ③イベント販売(2回) 1,984本 ④道外販売(7か所) 2,568本 ⑤協賛事業者(事業者数) 16,728本(89事業者) ⑥事業PR 2,990本 合計 110,598本(過去最多)	A:順調	①販売事業者(79か所) 77,592本 ②総務経営課直販 9,024本 ③イベント販売(2回) 240本 ④道外販売(7か所) 3,288本 ⑤協賛事業者(事業者数) 26,800本(91事業者) ⑥事業PR 3,056本 合計 120,000本(過去最多)	イベント集客予定 ①上下水道フェスタ 300名 ②広報関係キャンペーン 150名 合計 450名	

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数
							37 自然観察バスツアー	環境生活課	勇払原野に自生するハスカップの摘み取り・試食体験付自然観察バスツアー	日付：令和7年7月13日 回数：1回 参加者：20名	A：順調	定員20名に対して、参加申込人数が80名の申込があったため	勇払原野に自生するハスカップの摘み取り・試食体験付自然観察バスツアー 回数：1回を予定	20名
							38 東胆振物産まつり	観光政策課	1市4町の特産品である農水産加工品や農産物等を集め、地域の特色を生かし、実演販売や試飲・試食を交えながら展示即売を行い、東胆振広域圏の連携を強化し地域産業の振興を図ります。	・開催日 令和7年10月10日(金)～10月12日(日) ・開催場所 イオンモール苫小牧 ・内容 1市4町の15店舗が出店	A：順調	昨年と比較し、来場者は5,800人の増加となり、多くの方に東胆振地域の特産品をPRすることができた。	第43回東胆振物産まつりの開催 ・開催予定場所 イオンモール苫小牧 ・開催予定日 令和8年10月2日(金)～10月4日(日)	15,900人(令和7年度実績)
							39 苫小牧市特産品認定(とまナシユラン)	観光政策課	本市の特産品のパンフレットを作成し、市民のほか道外等にも広くPRします。	・特産品認定事業者の審査会を開催し、31事業者を認定。 ・パンフレットのデザインを変更し、14,000部作成。 ・パンフレットは、特産品認定事業者をはじめ、観光案内所や道の駅などに設置。	A：順調	左記の事業者や場所に配布、設置をしたほか、道外の観光PR事業でも配布した。道外の方々にも本市の特産品について情報発信することができた。	・特産品認定審査会の開催 ・パンフレットの作成 ・パンフレットの設置、配布	14,000部
							40 樽前交流センター	農林水産振興課	農村と都市との交流により地区活性化を図る中核施設として、体験農園を行います(指定管理：樽前町内会)。	22区画	A：順調	毎年全区画が埋まっており、野菜等の栽培の関心の高さが伺えるため。	22区画	22区画
				全期対象			41 地域資源活性化推進事業	農林水産振興課	地元農畜水産物等の消費拡大を目的として、イベント等に出店した場合に補助金を交付します。	苫小牧商工会議所の食品飲食業部会員による交流展示会に対して補助金を交付し、地元農水産物の地産地消の推進につながった。	A：順調	開催日を変更して日曜日開催としたことで昨年より来場者が約5倍増加したため。	苫小牧商工会議所による地産地消を推進するイベントに対し補助金を交付する。	出店：17事業者34名 来場者：約560名 (R7実績)
							42 産直マップの作成	農林水産振興課	樽前地区の農家が手がけた農産物の直売所を紹介します。	3,000枚	A：順調	チラシの追加を希望する施設が多くあり、樽前地区の農産物への関心の高さが伺えるため。	3,000枚	3,000枚
							43 みんなの消費生活展	地域活動支援室	その時代に即応した豊かな暮らしを創造していく意識の高揚を目的とし、暮らしに役立つ知識や情報を提供します。また、地域で作られた食品の販売も行います。	開催日：令和7年10月11日(土) 会場：市民活動センター 来場者：550人 内容：苫小牧消費者協会による食品ロスアンケート、フードライブ、厚真産さくら米・おふくろみそ販売等	B：やや順調	天候が思わしくなく、来場者が例年よりも若干減少したものの、出展者にも協力いただき、幅広い年代の方々に対して食ロスや、地産地消等をPRできたのではないかとと思う。	開催日：令和8年10月17日(土) 会場：市民活動センター 内容：未定	
							44 生ごみ3きり運動	ゼロごみ推進課	「使いきり」「食べきり」「水きり」の3つの「きり」を合言葉に、生ごみの減量啓発を行います。	出前講座により啓発を行った。また、次世代を担う子供への周知啓発を図るため、小学生向けと中学生向けのデジタル版副読本を作成し配布した。	A：順調	R7年度より副読本を紙媒体からデジタル版とすることで、これまでの小学校4年生及び中学生2年生だけではなく全生徒が副読本の閲覧が可能になった。	・各種出前講座での啓発 ・SNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。 ・商品を購入する際に、商品棚の手前から順に購入していただき食品廃棄物の削減を推進するとともに、消費者へ「もったいない」という意識啓発を図るための取組みを行う。	出前講座(随時受付)

第2次苫小牧市食育推進計画～地域を生かした食育の推進～ 実施結果・実施計画調査

※課の自己評価の記載【A:順調 B:やや順調 C:やや遅れている D:遅れている】

資料1

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数	
						45	情報媒体等による消費者への啓発	地域活動支援室	「くらしのニュース」の発行やパネル展等で、食品ロスをテーマとした啓発を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 【くらしのニュース】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、約3,000部発行 ・10月号で食品ロス啓発 ・3か月ごとに健康支援課の食育&健康コーナー掲載 【巡回パネル展】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年11月～令和7年12月、高校・専門学校10校において実施、食品ロスに関するパネルを含む展示 	B: やや順調	くらしのニュースは令和6年度から比べて、令和7年度は発行部数を約800部増やして、設置する施設を増加、PRの幅を広げた。また、巡回パネル展についても引き続き多くの学校に協力いただき、PRすることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 【くらしのニュース】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、約3,000部発行 【巡回パネル展】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年10月以降実施予定 		
						46	フードドライブ事業	ゼロごみ推進課	ごみ減量の一環として、様々な理由で処分されてしまう食品を家庭から集め、必要な方々に届ける運動「フードドライブ」を実施します。	フードドライブイベント（市内4か所）のほか、イベント時にブースを設けるなどし、集めた食品（66kg）をフードバンクとまこまいに寄贈した。	A: 順調	昨年開催場所を変更するなど工夫し、多くの方に事業を知ってもらうことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関と連携し、「フードドライブ」事業を実施し、集めた食品を必要とする方々に届ける。 ・SNSによる情報発信を行い、幅広く周知を図る。 	開催時随時受付	
						47	SNSでの動画配信	ゼロごみ推進課	ごみ減量の一環として、YouTubeやInstagramなどのSNSにより、食品ロスに関する情報を配信します。	環境戦隊053ファイブのYoutubeやInstagramなどのSNSを通じて、ごみに関する情報を発信周知している。R7年度はクリーンとまこまいの改訂版の発行やリチウムイオン電池の取り扱いについて発信した。	A: 順調	Instagramのリチウムイオン電池に関する啓発では閲覧数が2,000回を超えるなど効果的な発信ができた。	引き続きSNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。	さらなるSNSの情報配信等により周知を拡充する。	
3	「食」にふれあい、食育への理解を深めます	地元の食材を食べることを意識している人の割合	45.1% 【苫小牧市食育に関するアンケート調査】（令和3年度）	60%以上	妊娠期・乳幼児期	48	とまっこLINE	子ども家庭支援室	妊娠期から子育て期において、妊娠月数や子どもの年齢に応じた食事のアドバイス等の子育て支援情報を、LINEでお知らせします。	R5.10～とまっこアプリ運用開始により、R5.11でとまっこLINEは終了している。とまっこアプリに、妊娠中の食事や離乳食に関する情報を掲載した。ユーザー数：2,454人（R8.3末時点）	A: 順調	LINEからアプリに切り替えたことで、ユーザー数が3倍になり、情報を目にする機会の増加につながったため	とまっこアプリにて妊娠中の食事や離乳食に関する情報を掲載し、周知を継続します。	ユーザー数：2,700人	
						乳幼児期	49	親子ふれあい遊び	幼保施設課	食への関心を持ち、食べる楽しさを味わってもらうことを目的とし、親子で簡単に作ることができる手作りおやつ調理や、旬の食材（焼き芋・焼きとうもろこし）の試食を行います。	4回実施。51世帯、106名参加。	A: 順調	計画どおり実施することができた。	食への関心を持ち、食べる楽しさを味わってもらうことを目的とし、親子で簡単に作ることができる手作りおやつ調理や苫小牧特産品のハスカップジャムの試食を行います。	年4回実施予定 参加予定者数 64世帯、128名
							50	児童センター料理教室	子ども若者支援課	友達と一緒に料理を作る楽しさを味わい、会食を通して交流を深めることを目的に実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生17名参加 ⇒北栄児童センターで1回実施 ・大成児童センターではフードロスの観点で残さない食べ方を児童に伝え、食事を提供している ⇒子ども食堂（計13回実施） 	B: やや順調	料理教室は前年度未実施であった中、1回実施し、他のセンターでは食に関する取組を行ったためB評価とした。	北栄児童センターで1回実施	北栄児童センターで20名参加予定
							51	児童センターおべんとうタイム	子ども若者支援課	異年齢の子ども達と会食することにより、食事のマナーや食生活の大切さを学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・7館（あさひ、大成、住吉、沼ノ端、錦岡、日新、北栄）で635回実施 ・11,669人参加 	A: 順調	昨年の利用人数10,962人を上回り、目標を達成したため。	7館（あさひ、大成、住吉、沼ノ端、錦岡、日新、北栄）で623回実施予定	7館（あさひ、大成、住吉、沼ノ端、錦岡、日新、北栄）で11,214人参加予定
学童期	52	食物アレルギー対応	学校給食共同調理場	給食は、「食の大切さ」「食事の楽しさ」を理解するための教材としての役割を担っていることから、アレルギーのある児童生徒も同じように安心して食べられるよう対応食を提供します。	令和8年3月時点での提供数 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 16校31名 ・中学校 3校 3名 	A: 順調	予定通り実施することができたため、A評価とした。	卵・乳の代替食を、希望する市内小中学校対象者に提供する。	令和8年4月からの提供予定数 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 16校29名 ・中学校 4校 7名 						

基本目標	指標	現状	目標	R7年度実績	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R7年度実施結果	課の自己評価	評価理由 (自己評価の評価理由を記載)	R8年度実施計画	R8年度参加者等予定数
						53	食育・科学教室	科学センター	食品メーカーから講師を招き、テーマに沿って小中学生に向けた教室を行うことで、食への興味と知識を広げます。	2回実施(R7年11月15日(土)) ・10:00～11:00 ・13:00～14:00 参加者21組、51名	A:順調	食品メーカーと連携した「食育・科学教室」を計画通り実施し、小中学生に対し科学的なアプローチから食の魅力を伝えることができた。	日時：R8年11月15日(日) ・10:00～11:00・13:00～14:00 対象：小中学生 タイトル：「なるほど」がいっぱい！みるく教室 内容：「牛乳・乳製品」について好奇心を刺激しながら楽しく学ぶ	2回実施 参加者 各12組 (1家族で1組)
					壮年期～ 老年期	54	オンライン健康教室（ハスカッププラザ）	健康づくり課	市民のための健康づくり全般をサポートすることを目的に、オンライン栄養教室等の各種健康教室を開催します（指定管理者：ハスカッププラザ）。	対面で実施。（令和4年途中～） ・栄養教室 参加者：185人 ・健康・栄養相談 相談者：22人	A:順調	会場を保健センターの他、交通の便が良いココトマでも実施し、より多くの方が参加できる環境づくりを行った。参加人数は、栄養教室は前年同様だが、相談者は前年より1.7倍となった。	・会場を保健センターとココトマの2会場で実施する。 ・5つのテーマで全9回実施予定。	・栄養教室 参加者：100人 ・健康・栄養相談 相談者：10人
					老年期	55	町内会等サロンの推進	総合福祉課	地域住民の閉じこもり防止や仲間づくり等を目的に、身近な場所で住民が定期的集まり交流する地域の憩いの場を作り、介護予防や生きがいづくりへつなげます。	令和7年度登録数 87ヶ所 開催数 978回 参加人数 延べ 16,438名	A:順調	コロナ以降休止していたサロンが廃止となり、全体のサロン数は微減したが、全体の参加人数は増加傾向にある。	地域住民の閉じこもり防止や仲間づくり等を目的に、身近な場所で住民が定期的集まり交流する地域の憩いの場を作り、介護予防や生きがいづくりへつなげます。（苫小牧市社会福祉協議会）	未定
					全期対象	56	食育月間（6月）	健康づくり課	食育月間である6月に、関係機関と協力しながら食育の普及啓発を図ります。	・給食センターと連携し、6月に市役所1階ロビーおよび中央図書館にて、給食をテーマにパネル展や食器展示、給食レシピ配付等を実施した。 ・市職員向けにSATシステムを利用した研修（健康増進セミナー）を1回実施した。 【食育月間以外の取組】 ・食生活改善普及運動月間にコンビニエンスストアへPOPを設置した。 ・毎月健診等で来所することもと保護者向けに、食育コーナーを設置した。 ・児童センターに食育のポスターを掲示した。 ・くらしのニュースにレシピやコラムを掲載。	A:順調	各種機関と協力し、多角的なアプローチで幅広い層（市民、市職員、子どもとその保護者）に対し、多様な媒体（パネル展、研修会、コンビニPOP、食育コーナー、ポスター、広報紙）を活用して食育に関する情報提供と啓発活動を継続的に実施できたため。	・6月に市役所1階ロビーおよび中央図書館にて、朝食をテーマにパネル展やレシピ紹介等を実施予定。 ・市職員向けの健康セミナーを開催予定。 ・他食育月間以外の取り組みは令和7年度と同様に実施予定。	前年度と同様の見込み
						57	食育の日（毎月19日）	健康づくり課	毎月19日に、とまチョップのSNSを通じて、食育にまつわるちょっとした情報を発信します。	毎月19日に健康支援課インスタグラムにて旬のメニューの紹介のほか、学校給食の紹介等を発信した。	A:順調	定期的に情報を発信し、食育に関する多様なコンテンツ（旬のメニュー、学校給食）をインスタグラムという身近な媒体で提供することで、市民の食育への関心向上と情報アクセスの機会を創出できたため。	・毎月19日に、旬のメニューの紹介のほか、食育に関する情報等を発信予定。	毎月情報を発信する